令和６年度　特色ある学校づくり推進事業報告書

『当たり前のことが当たり前にできる生徒・教師の育成をめざして』

美和中学校

１　目的

（１）指導力向上

教科指導の充実を図るために、専門的な指導を通して、教員個々の資質向上を図ります。

（２）豊かな人間性の育成

生徒一人一人が互いに認め合い、尊重し合い、共感し合って温かい人間関係をつくろうとする心の育成を図ります。

２　内容

（１）指導力向上

教科指導について、美和地区在住の滝本清三先生（木田塾道場　尾張合気会　会長　八段）を講師に招き、教科指導（保健体育）で武道指導（合気道）として体育科教諭を中心に２年生女子生徒を対象にして実施しています。本年度は、瀧本先生の他に村瀬正卓氏（合気道・護身術清流館/元教員）と瀧本先生のお弟子さんである林慶氏（元 PTA 会長）を加えた３名をお迎えし、二日間実施しました。（１２／５・６）

（２）豊かな人間性の育成

ア　合唱の発声・表現のレベルの向上をめざし、専門的な講師による指導を通して、音楽美を感得し、豊かな表現力の育成と豊かな情操の醸成を図ります。本年度は、文化祭（合唱コンクール）に向けて、照喜名純子先生を講師としてお招きをし、合唱指導をしていただきました。２月にも、卒業式に向けた合唱指導も予定をしています。（【合唱コンクール指導】１０/４、【卒業式の合唱】２/１９）

イ　命の大切さや尊さを知り、自分や他人を大切にしようとする心の育成を図るために、伊藤幸子氏（名古屋医専教務部主事）を講師に招き、命の授業を実施しました。（１１／２６・２７）

ウ　豊かな心の育成に向け、人権に関する価値や重要性を感受させ、共感的に受け止めさせることで、他者を思いやる心と自己肯定感の向上を図ることを目的とし、「いのちと夢」をテーマに、音楽を通して全国で講演を行っている合唱作曲家の弓削田健介氏を昨年度に引き続き講師として招き、「人権講演会」を実施しました。（１１/１６）

３　評価

（１）指導力向上

新学習指導要領のもと、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善が重要視されています。変化の激しい時代を生きるため、学び続ける姿勢は子どものみならず教員にも求められます。

本年度も各教科で授業展開を工夫して取り組みました。とりわけ本年度は、外部講師による武道指導（保健体育科）に若手教員が参加・参観することで、個々の指導の視野が広まり、教師としての力量向上につながりました。

【２年生保健体育科の授業風景】

（２）豊かな人間性の育成

【合唱コンクールの様子】

ア　本年度も文化祭（合唱コンクール）にむけ、各学年の合唱指導に照喜名純子先生をお招きし、指導をしていただきました。

先生からは、声の出し方、目線の位置、響き合う歌声などについて専門的見地からの指導をしていただき、生徒達は一層、合唱に力を入れることができました。

結果として、どの学年も素晴らしい合唱を披露することができました。

イ　「命の授業」は、毎年１年生を対象として継続実施しています。「人間の生命誕生のプロセスやその神秘性、母体内でどのように成長し、この世の中に赤ちゃんとしてどのように誕生したのか」をテーマにしています。講師の伊藤先生の指導は、豊富な指導経験のもと大変丁寧で分かりやすく、子どもたちに生命誕生のすばらしさや命の尊さを教えてくださいます。また、生徒の関心・意欲を高め、個々への対応として２日間でクラスごとに６クラスの授業を実施していただき、さらに助手として多くの学生を連れて指導に当たっていただきました。

生徒にとって、自他を大切にする気持ちを高めるよい機会となりました。

ウ　「いのちと夢」をテーマに、音楽を通して全国で講演を行っている合唱作曲家の弓削田健介氏を昨年度に引き続き講師として招き人権講演会を実施しました。震災を経験された方の映像などを交えながら、命の尊さ、夢をもつことの大切さについて講演していただきました。どの生徒も目を輝かせながら、真剣に話を聞くことができました。弓削田氏の歌や音楽を交えながら、未来に向かって生きる勇気や人への感謝の気持ちの詰まったメッセージが、生徒たちの心に強く響きました。生徒からは、「今日は、昨日亡くなった人が生きたかった日と思うと、今日という日を大切に生きていかないといけないと思った」「地震の時の話を聞いてて、今自分が悩んでいることが小さく感じたし、今を一生懸命生きていかないといけないと思った」といった感想が上がり、生徒一人一人が「いのちと夢」について見つめ考える時間となりました。

【講演を行う弓削田健介氏】

４　課題

特色ある学校づくり推進事業により、生徒は通常の教科の授業や学校行事では体験できないことを学ぶ機会を、また、教師は指導力を向上させる機会を得ることができました。

今後も、学びや学んだことを活用する場を通して、自己の成長が実感できる場を工夫してつくりだし、いかに生徒の自己肯定感・自己有用感を高め、主体性を伸ばしていくかが課題となります。

次年度以降も引き続き、生徒や保護者・地域からの信頼を得るために、教育活動のさらなる向上や発展を目指して「当たり前のことが当たり前のできる生徒・教師」をキーワードに、全職員が力を合わせ質の高い教育活動を展開していきたいと考えています。